



[千年の都を育む水・土・緑]

歴 2-08 (R03)

近世以来、東九条村の大地主である長谷川家は、代々領主庄屋として相国寺領を管理し、江戸時代には農地経営を生業としていました。

通りに面して、江戸後期に建てられた2階建ての土蔵と、棟を落とし接続している表門（江戸末期築造）が並び、共に風格ある表構えです。

寛保2年（1742）建造の主屋は、切妻造り葺瓦葺きで、2階正面に横長の虫籠窓を設け、1階の庇上部には前包と呼ばれる幕板を渡し、前面に洗練された意匠の角屋座敷棟を張り出しています。京都市南部では数少ない、町家風の外観をもつ大型の近世民家（農家）建築です。

離れ（大正2年上棟）は、水彩画家の10代目当主により平面と意匠の設計がなされ、画号から「去木庵」と名付けられました。

ギャラリーやアトリエなど、一部をレンタルスペースとし、地域のセミナー会場や展覧会などに利用されています。

長谷川家に残された古書籍は、江戸初期に出版された古事記や日本書紀、貝原益軒の絵本楠公記や絵本太閤記などの他、歴史の変遷がわかる古地図等、貴重な資料が4800冊ほどあり、現在も数名の研究者によって調査が進められています。



ダイドコ



通りから



〒601-8024 京都市南区東九条東札の辻町5

電話／FAX 075-606-1956

アクセス 市バス「札の辻」徒歩3分

ホームページ <http://hasegawake.net/>